

## 第 54 回新潟画像医学研究会

日 時 平成 18 年 6 月 24 日 (土)  
午後 2 時～  
会 場 ホテルディアモント新潟 B1 階  
「鶴の間」

2 口底部に発生した Myoepithelial carcinoma  
の 1 例 — MRI 画像所見を中心として —

西山 秀昌・斎藤美紀子・田中 礼  
林 孝文・程 瑠\*・朔 敬\*  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面放射線学分野  
同 口腔病理学分野\*

## I. 一 般 演 題

## 1 発症後早期の MRI で異常所見を認めなかつた化膿性脊椎炎の検討

勝見 敬一・伊藤 拓緯・平野 徹  
佐藤 剛・森田 修・保坂 登\*  
内山 徹\*\*・佐藤 慎二\*\*\*  
新潟大学整形外科  
新潟労災病院整形外科\*  
県立がんセンター新潟病院整形外科\*\*  
鶴岡市立荘内病院整形外科\*\*\*

【目的】化膿性脊椎炎の早期診断には MRI が有用とされる。今回発症早期の MRI で異常所見を認めなかつた化膿性脊椎炎の 11 例を経験したので報告する。

【対象と方法】初回 MRI で異常所見が認められず、2 回目 MRI で診断が確定した 11 例を対象とし、MRI 撮影時期、他科治療患者の初期診断、確定診断されるまでの経過について検討した。

【結果】症例は男性 8 例・女性 3 例、平均年齢 67 歳 (46～79 歳) であった。発症から初回 MRI 撮影までは平均 7.9 日 (2～19 日) であり、2 回目の MRI は、発症から平均 28.3 日 (9～56 日) であった。

【考察】化膿性脊椎炎において、MRI 輝度変化は発症後数日から現れるという報告が多い。しかし今回発症早期で MRI 異常所見が認められない症例を経験した。文献的考察も加え、診断の pit-fall と point を述べる。

## 3 側頭下窩に発生した滑膜肉腫の画像所見

織田 隆昭・諏江美樹子・亀田 綾子  
佐々木善彦・外山三智雄・羽山 和秀  
土持 眞  
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科  
放射線学講座

患者 18 歳、女性。初診時左側頬部腫脹、麻痺 (－)、開口障害 (＋)、左側顎関節可動性ほとんどなく開口時下顎は左側へ変位を認めた。単純 X 線写真では左側翼口蓋窩付近に軟組織陰影を認め、上顎洞後外側壁は上方に圧排、下顎枝は外方に圧排されていた。CT、MRI で左側側頭下窩領域に大きさ 50×50mm 程度の病変を認め、内部は前方で充実性、後方で石灰化を認める領域が存在した。内部は不均一で造影性も不均一であった。病変周囲の下顎頭、上顎洞後壁に著明な骨吸収は認めなかった。骨シンチでは、病変の石灰化部は高集積を認めたが前方の非石灰化部に集積はみられなかった。腫瘍シンチでは集積程度が弱かった。

以上の画像所見より側頭下窩に存在する軟組織腫瘍と診断した。周囲組織への浸潤破壊が比較的軽度のため良性腫瘍も考慮したが、腫瘍内部の不規則な不均一性、急激な増大より悪性腫瘍も考えられた。病理組織検査では滑膜肉腫と診断された。